

有名プロと楽しく「闘牌」

仙台で復興支援麻雀大会



被災者らがプロと一緒にマージャン卓を囲んだ

日本プロ麻雀（マージャン）連盟が主催する「震災復興支援麻雀大会」が1日、仙台市青葉区のマージャンホールで行われた。県内の沿岸部などに住む愛好家約100人が参加し、ゲスト出場したプロとの対戦を楽しんだ。

相手を変えながら1人6ゲームを行い、順位ごとに与えられるポイントを競った。連盟の小島武

夫最高顧問、灘麻太郎会長らテレビ、雑誌で活躍する所属プロ11人も参戦し、高度な牌（パイ）さばきを見せた。

ゲーム終了後には、それぞれのプロが同席した参加者に色紙などをプレゼント。参加者は「有名プロと打って光栄」「短いゲームだったが、技量がよく分かった」などと満ち足りた。

連盟東北本部（仙台市）の平田孝章本部長は「これほど多くのプロが集まるのは初めて。マージャンでストレス解消してもらったためにも、今後定期開催したい」と話した。